




全国財務局長会議関連(平成29年4月26日開催)

## 地域の特徴的な動き

- I. 最近の九州財務局管内の経済情勢
- II. 九州財務局管内における賃金の動向について








平成29年4月  
九州財務局

# I. 最近の九州財務局管内の経済情勢





	前回(29年1月判断)	今回(29年4月判断)	前回比較	総括判断の要点
総括判断	平成28年(2016年)熊本地震の影響がなお残るものの、緩やかに回復しつつある	平成28年(2016年)熊本地震の影響が一部に残るものの、 <u>回復しつつある</u>		熊本県を中心とした平成28年(2016年)熊本地震の影響により、個人消費は観光で一部に弱さが残るものの、復旧需要の継続等を背景に回復しつつあるほか、住宅建設も緩やかに回復しつつある。生産活動は海外需要や挽回生産の継続等を背景に回復しつつある。こうした下、雇用情勢は有効求人倍率が高水準で推移するなど改善している。

## 〔先行き〕

先行きについては、熊本地震からの復旧・復興の動きが進み、各種政策効果や復興需要等を背景に、景気が回復していくことが期待される。ただし、人手不足感の高まり等により熊本県においては熊本地震の影響からの回復の動きに制約を及ぼす懸念があるほか、海外経済の不確実性など管内経済を下押しするリスクにも留意する必要がある。

	前回(29年1月判断)	今回(29年4月判断)	前回比較
個人消費	観光で一部に弱さが残るものの、緩やかに回復しつつある	観光で一部に弱さが残るものの、回復しつつある	
生産活動	地震の影響が一部に残り地域差はみられるものの、緩やかに回復しつつある	回復しつつある	
雇用情勢	改善している	改善している	
設備投資	28年度は減少見込み	28年度は減少見込み	
企業収益	28年度は増益見込み	28年度は増益見込み	
企業の景況感	「上昇」超となっている	「下降」超となっている	
住宅建設	復旧需要の増加等から持ち直しているなかで、熊本県では地震の影響による着工遅延が続いている	緩やかに回復しつつある	

## 管内各県の経済動向

	29年4月判断	前回比較
熊本県	平成28年(2016年)熊本地震の影響がなお残るものの、緩やかに回復している	
大分県	緩やかに持ち直している	
宮崎県	緩やかに持ち直している	
鹿児島県	緩やかに持ち直している	

※1. 29年4月判断は、前回29年1月判断以降、4月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

※2. 各項目の詳細については、冊子「全国財務局管内経済情勢報告概要」参照。

## II. 賃金の動向について

### 25年度～29年度の賃金の動向について

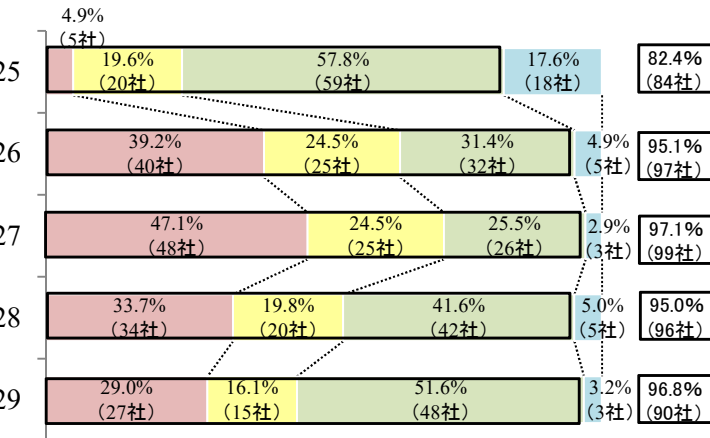
情勢報告調査にあわせ管内の企業に賃金の動向に関するヒアリングを実施。実施時期は3月中旬から4月中旬。対象先数は計102社。内訳は製造業50社、非製造業52社。規模別では大企業51社、中堅企業26社、中小企業25社。

- 29年度に賃金引き上げを行う企業の割合は96.8%（態度未定除く）。25年度は82.4%、26年度は95.1%、27年度は97.1%、28年度は95.0%と、その割合は高い水準で推移しており、賃金引き上げの流れが続いている。
- 29年度にベアを行う企業の割合は29.0%（態度未定除く）。25年度は4.9%、26年度は39.2%、27年度は47.1%、28年度は33.7%と、28年度以降低下しているものの、29年度もベアを行う動きは継続している。
- ベアを行う企業の割合の減少は、規模別にみると大企業で、業種別にみると製造業でみられる。

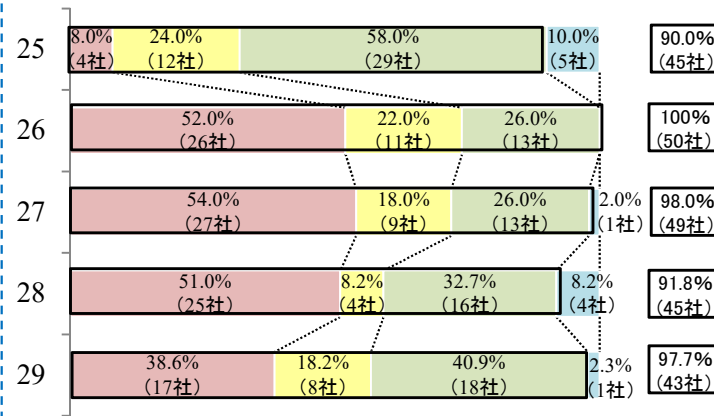
■ …ベアを行った企業   
 ■ …ベアを実施せずに一時金増を行った企業   
 ■ …定期昇給のみを行った企業   
 ■ …賃上げを行わなかった企業   
 ■ …何らかの賃上げを行った企業

回答数（未回答及び態度未定（29年度のみ）除く）  
 25年度：102社、26年度：102社、27年度：102社、28年度：101社、29年度：93社

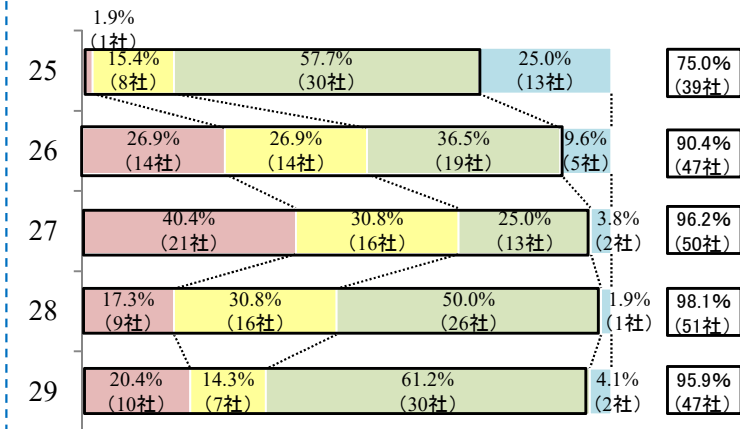
#### <全規模・全産業>



#### <製造業>



#### <非製造業>



#### (参考) 規模別の賃金の動向

	賃金引き上げを実施した企業数及び割合(社)				
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
大企業	44/51 86.3%	50/51 98.0%	51/51 100.0%	48/50 96.0%	47/48 97.9%
中堅企業	20/26 76.9%	24/26 92.3%	25/26 96.2%	26/26 100.0%	22/23 95.7%
中小企業	20/25 80.0%	23/25 92.0%	23/25 92.0%	22/25 88.0%	21/22 95.5%

	賃金引き上げを実施した企業のうちベアを実施した企業数及び割合(社)				
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
大企業	1/44 2.3%	23/50 46.0%	31/51 60.8%	21/48 43.8%	15/47 31.9%
中堅企業	3/20 15.0%	12/24 50.0%	9/25 36.0%	9/26 34.6%	8/22 36.4%
中小企業	1/20 5.0%	5/23 21.7%	8/23 34.8%	4/22 18.2%	4/21 19.0%

※「ベア・一時金増額の双方を行っている企業」は「ベアを行った企業」にのみ計上。

※大企業：資本金10億円以上。中堅企業：資本金1億円以上10億円未満。中小企業：資本金1億円未満。

## II. 賃金の動向について

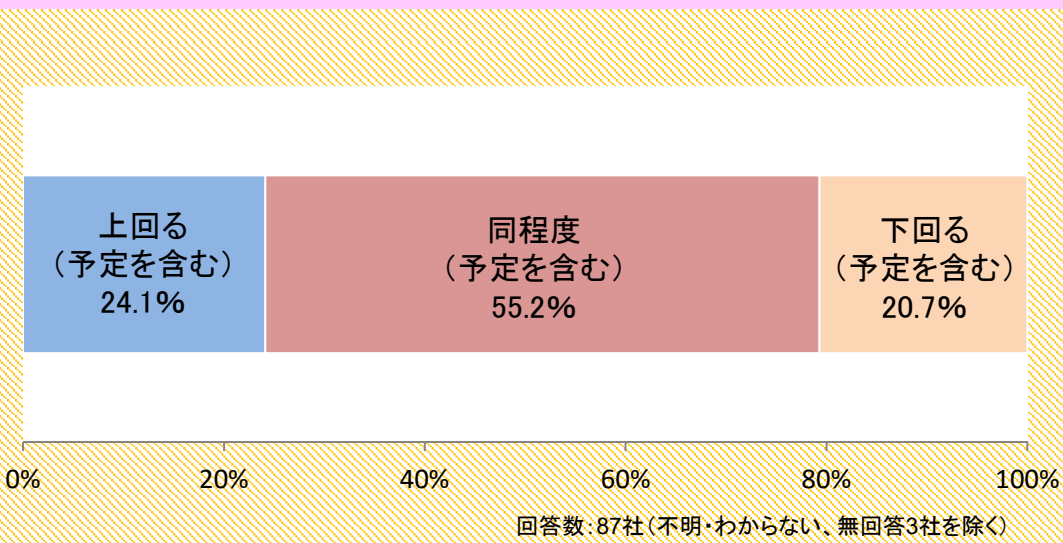
### 28年度、29年度の賃金の引上げ動向と引上げ率について

- 29年度に賃金引上げを行う企業のうち、ベア、賞与・一時金増額及び定期昇給分を合算し、引上げ幅を前年度と比較してみると、「上回る(予定を含む)」とする企業が24.1%、「同程度(予定を含む)」とする企業が55.2%、「下回る(予定を含む)」とする企業が20.7%となり、約8割の企業が前年度と同程度以上の賃金引上げを行うとしている。
- ベア及び定期昇給を合算した引上げ率(前年度比)で、29年度に「2.0%以上の賃金引上げを行う」企業の割合は約4割となっている。

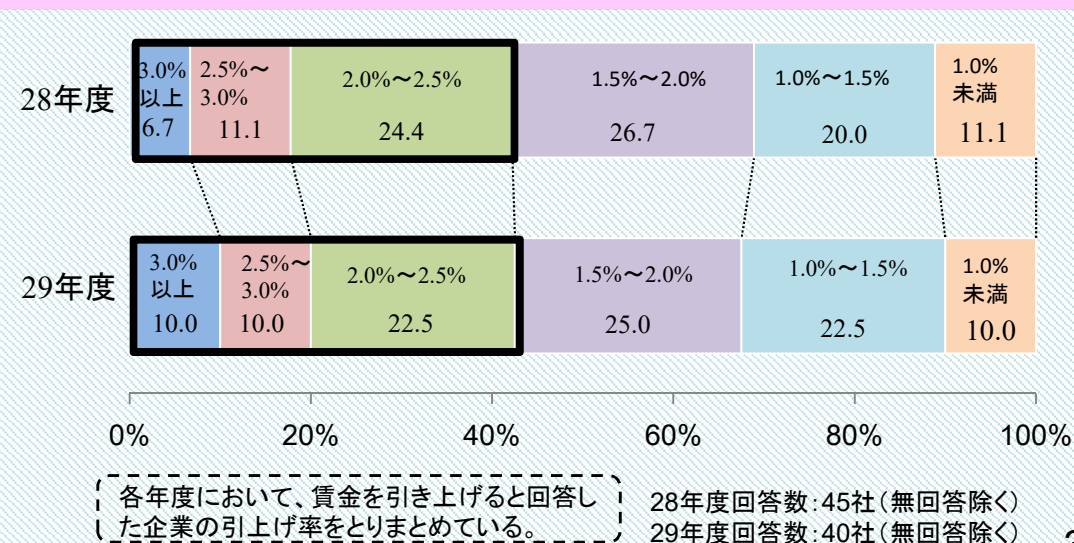
#### 【企業の声】

- 社員のモチベーション向上や待遇改善のため、思い切った賃上げを行った。【食料品製造／中小企業】
- 先行きが不透明なため、定期昇給のみでベアは実施せず。【その他の輸送用機械器具製造／大企業】
- 業績が好調であることに加え、人材の確保が必要であることを重視し、ベアを実施。【陸運／中小企業】
- 賃金の引上げ率の決定に当たっては、世間の雰囲気と同調することも大きな比重を占める。【卸売／大企業】
- 28年度は震災対応に尽力した社員に報いるため臨時の賞与給付を行ったことから、29年度は賞与の増加見込みはない方針。【不動産／中小企業】

#### ベア、賞与・一時金及び定期昇給分を合算した前年度との比較



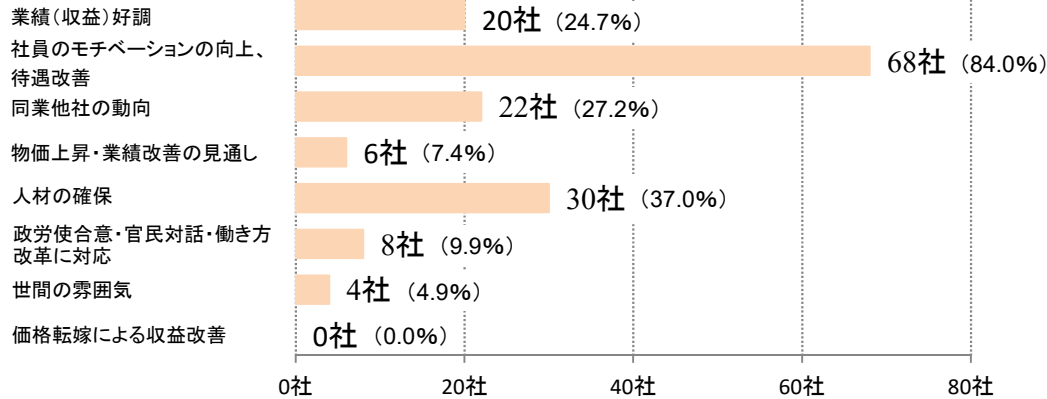
#### ベア及び定期昇給分を合算した前年度との比較



## II. 賃金の動向について

### 29年度に賃金の引上げを『実施する』理由について

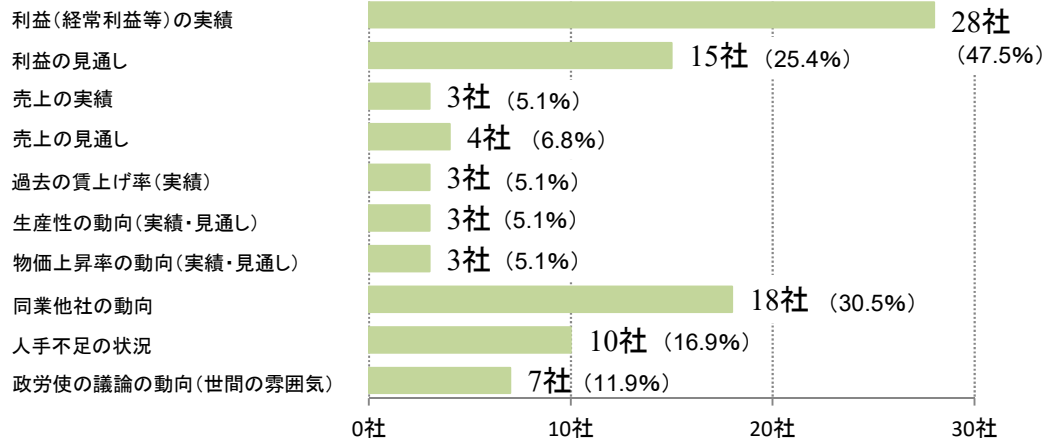
- 「社員のモチベーションの向上、待遇改善」を理由の一つに挙げる企業が最も多く(68社)、これが賃金引上げの主因となっていることが窺える。以下、「人材の確保」(30社)「同業他社の動向」(22社)、「業績好調」(20社)、となっている。



※ 29年度に賃金引上げを行う(予定含む)と回答した90社のうち、無回答9社を除く81社を対象(複数回答)。

### ベア引上げ率の決定要因について

- 「利益(経常利益等)の実績」を理由の一つに挙げる企業が最も多く(28社)、次いで、「同業他社の動向」(18社)、「利益の見通し」(15社)、「人手不足の状況」(10社)、となっている。



※ 25~28年度に一度でもベアを行ったことのある、または29年度にベアを行う(予定含む)と回答した66社のうち、無回答7社を除く59社を対象(2つまで、複数回答)。

### 【企業の声】

- 熊本地震で当社が被災したこともあり赤字決算となるが、社員のモチベーション向上のため、ベア等を実施する予定。【印刷／中小企業】
- 働き方改革が叫ばれる中、社会の要請を勘案し、社員の待遇改善のために実施を検討。【業務用機械器具製造／中小企業】
- 近隣地域や隣県の同業他社と人材の取り合いになっており、人材確保のために賃上げを実施する。【食料品製造／中堅企業】
- 業績が堅調な水準を維持できていることから、ベアに踏み切った。【食料品製造／中堅企業】
- 経営状態は良好とは言えないものの、職員の士気低下を防止するために決断。【小売／大企業】
- 吸収合併した子会社出身者の賃金が低いため、連続増益のこの機会に格差を是正する賃上げを行う。【建設／中堅企業】

### 29年度に賃金の引上げを『実施しない』理由について

- 賃金引上げを行わない理由(複数回答)は「業績の低迷」や「雇用維持を優先」となっている。

### 【企業の声】

- 業績不振のため、28年度に引き続き29年度も賃上げを実施しない。【食料品製造／中小企業】
- 人員は過剰気味であるが、賃上げより雇用維持を優先している。【小売／中堅企業】

※29年度に賃金引上げを行わない(予定含む)と回答した企業は3社。

## II. 賃金の動向について

### 1. 調査の概要

平成29年の春闘結果等を踏まえた賃金引上げ状況等を把握するため、九州財務局ほか全国の各財務局において管内の企業等を対象にヒアリング調査を実施しました。その結果を公表します。

(1)調査期間：平成29年3月中旬～4月中旬

(2)調査対象：各財務局が管内経済情勢報告を取りまとめる際に従来から継続的にヒアリングを実施している企業等。九州財務局計102社(全国計1,388社)。  
内訳は製造業50社、非製造業52社。規模別では大企業51社、中堅企業26社、中小企業25社。

(3)調査方法：各財務局によるヒアリング調査による。

上記調査期間において、各企業等に対して、平成25年度、26年度、27年度及び28年度の賃金引上げの実績及び29年度の賃金引上げの計画等を確認したもの。

(注)平成28年4月27日公表の「財務局調査による『賃金の動向』について」とは対象企業が異なっている場合がある。

### 2. 用語の定義

○ベア(ベースアップ)

…賃金表等の改定により賃金水準を引き上げること。

○定期昇給

…毎年一定の時期を定めて、その企業の昇給制度に従って行われる昇給。また、毎年時期を定めて行っている場合は、能力、業績評価に基づく査定昇給なども含む。

○賞与・一時金

…1年間における賞与、期末手当等特別給与額(いわゆるボーナス)をいう。支給事由の発生が不確定な手当や、新しい協約による給与の追給額も含まれる。

### 3. 注意事項

○結果数値(%)は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合がある。

○複数回答の質問は、回答数を総回答社数で割った比率を回答割合としているため、合計が100%を超える場合がある。

## II. 賃金の動向について

### 働き方改革の先進的な取組事例

#### 事例1：異文化適応力の高い人材育成とともに地域貢献を実践している大学

##### ➤大学概要

・ **立命館アジア太平洋大学** (大分県別府市)  
(APU~Ritsumeikan Asia Pacific University~)

- ・平成12年4月開設
- ・学生数5,848人 (国際学生(留学生) : 90の国・地域から2,944人 (50.3%) )
- ・外国籍教員が半数 (専任教員172人のうち24の国・地域から87人 (50.6%) )
- ・留学生受入れ数 : 全国4位 (人口当たり留学生数 : 大分県が全国1位)

##### ★異文化適応力の高い人材育成

###### ◆大学開設時から「3つの50」の達成を条件に

- ・国際学生比率50% ・外国籍教員比率50%
- ・国際学生の出身国・地域50以上 <開設当初からほぼ達成>

###### ◆日本語と英語のどちらでも受講可能な「2言語教育システム」の整備と国際学生への日本語教育の徹底。

⇒母国語、英語、日本語の3言語を操る人材育成

###### ◆学生寮 (APハウス) で国際学生と国内学生が同じ部屋に

###### ◆文部科学省の「スーパーグローバル大学」に選出 (26年)

ビジネススクール国際認証AACSB (※) 取得 (28年)

(※) The Association to Advance Collegiate Schools of Business

##### ★地域貢献～国際学生の在学中の活躍～

###### ◆大分県全市町村と連携協定

###### ◆地域住民の国際感覚の涵養、キャリア支援

⇒国際学生の小中学校・高校への派遣 (語学教育、模擬講義等)  
⇒小学生から高校生を対象にオープンキャンパス

###### ◆地元大分県・別府市のPR

⇒国際学生によるインターネットを通じた海外向け情報発信

###### ◆語学力を生かした観光通訳

###### ◆企業活動への貢献

⇒ホテル等でのアルバイトは観光がメインの別府市では多くの国際学生が貴重な存在

##### ★企業との連携

###### ◆企業向け短期留学プログラム (短期研修の受入) の実施 (23年～)

⇒企業は多様な文化圏学生との触れ合い、国際学生は企業の生の情報を得る機会

###### ◆ムスリム研究センターの設立 (27年)

⇒ムスリム文化との共生、ムスリム市場開拓による地方創生に資するモデルの構築を目的。現在、地元企業と共同でハラール醤油開発進行中。ダブルネームでの商品化予定。

##### ★地元自治体の評価 (別府市)

###### ・別府市在住の留学生が増加し、市民と留学生との触れ合いが活発化

⇒市民のグローバル化、小中学生等の国際感覚の向上に寄与

##### ★企業の評価 (杉乃井ホテル&リゾート(株))

###### ・留学生の日本語習得は早く、社会勉強の目的を持ち学習意欲も高い


⇒留学生アルバイトは貴重な戦力 (半数が留学生)

##### ★さらなる大学の発展に向けた課題

###### ・今後10年で「3つの50」を超える「4つの100」を目指す

➤国際学生出身国・地域100、新入生100%寮生活、在学中海外経験100%、多国籍学生のグループ協働学習実施率100%

###### ・国際競争力を向上するため、新たな認証の取得に取り組む

- 
- 学内企業説明会には年間300社が参加  
● 国際学生の約3割が日本国内で就職し活躍

## II. 賃金の動向について

### 働き方改革の先進的な取組事例

#### 事例2：都市部とは異なる時間～週休3日制などの「くにさき時間」～を活かし、生産性向上に繋げた事例

##### > 企業概要

- ・ **(株)アキ工作社** (大分県国東市、中小企業)
- ・ 段ボールを使ったマネキンなどの立体造形商品の製造販売

##### > 取組みの経緯と内容

- ・ 平成10年の創業以来、24年度に初めて売上が前年比で減少。
- ・ 再び売上を伸ばすため、**創造力の向上**とともに、生産上のミスを削減し、**生産性が上がる仕組み**を思考。

★「週休3日制」導入 (25年6月) ※通称「国東時間 (くにさきじかん)」

##### ☆導入当初

午前8時～午後7時  
<10時間勤務>

さらに  
進化

##### ★29年3月からの国東時間

午前8時～午後5時  
<8時間勤務> ※給与据え置き

- 3日間は単なる「休み」ではなく、**地域との共生(地域活動に参加)やアイデア創造など「創造力の向上」に繋げる機会** ⇒ 休日のボランティア手当なども別に支給

##### ★無駄の排除、定年制の廃止

- ◆ 会議を週2回に限定し無駄な会議を削減させたほか、仕事を優先順位付けし、スケジュール管理を徹底。
- ◆ 定年制を廃止、健康であればいつまでも働ける環境に。

##### > 取組みの効果と課題

- ◎ 週休3日制導入後、売上がアップ (25年度は前年比28%上昇) するなど、**労働生産性が向上**。休日等の有効活用により、スキルアップの向上や子育て時間が確保、社員のモチベーションも向上。
- ◎ **同様の取組みが、同市内の他社にも広がっている。**
- 社内託児所設置のほか、有期パートの正社員化等を検討。

#### 事例3：離島では珍しい完全週休2日制や大幅なベアにより、社員の意識改革に取り組んでいる事例

##### > 企業概要

- ・ **町田酒造(株)** (鹿児島県大島郡龍郷町、中小企業)
- ・ 黒糖焼酎の製造・販売。

##### > 取組みの経緯と内容

- ・ カリスマ創業者の急逝に伴う社内外の不安払拭及び企業の更なる成長のためには、**売上向上より、まずは社員の意識改革(働き方改革)が先決**。
- ・ そのため平成28年4月より新社長のもとで再出発し、改革を実施。

★完全週休2日制の導入 ※奄美大島では完全週休2日制は多くない

- ◆ 導入前 週休1日制 (月間労働25日勤務。祝祭日も勤務)
- ◆ 28年4月～ 隔週2日制 (業務への影響を確認するため試行)
- ◆ 28年6月～ 完全週休2日制 (祝祭日休業)

##### ★兼業・副業の推奨 (従業員52名のうち10名が兼業・副業に従事)

- ◆ 週休2日制導入による休暇の有効活用、収入増加
- ◆ 本業への人脈や知見の還流

##### ★大幅なベア

- ◆ 大幅なベースアップ (7.71%、約2万円) を実施 (29年4月)
- ◆ この他、育児休業、配偶者出産有給休暇、人間ドック休暇等の各種休暇制度等を併せて導入

##### > 取組みの効果と課題

- ◎ **社員自ら考えはじめたことにより、社員間の協力姿勢が自然発生**。その結果、勤務時間内で仕事が完結。
- ◎ 焼酎業界の売上縮小傾向の中で、**社員発案による新ブランド立ち上げ等のための委員会**を設立 (28年6月)。
- 売上向上のための方策を委員会で具体的に検討中のほか、**パートの正社員化、定年延長を導入予定**。